

# みちしるべ

第144号

人権・同和問題啓発広報  
人権同和政策課  
☎ 22-7506  
同和教育・啓発推進会議

市では、同和問題をはじめとするあらゆる人権問題の解決に向けて、教育・啓発に取り組んでいます。今回は、7月に開催した「同和教育講演会」の様子と、さまざまな人権問題をテーマに年4回シリーズで開催している「人権・同和教育基礎講座」、12月4日から10日までの「人権週間」、「第31回隣保館まつり人権標語特選作品」についてご紹介します。

## 第51回出雲市 同和教育講演会

7月28日、平田文化館プラタナスホールで、水平社博物館館長の駒井忠之さんをお迎えし、「熱と光を求めて―水平社創立の思想に学ぶ―」と題して講演をしていただきました。

全国水平社創立の歴史や、水平社宣言と呼ばれている全国水平社創立宣言の世界的意義について話されました。水平社宣言は、人間の平等と尊厳を求めた日本初の「人権宣言」であり、在日朝鮮人やハンセン病回復者などの自主的な運動の展開に刺激を与え、国内の新聞だけでなく、海外の新聞や雑誌で紹介されるなど、世界から注目を浴



びました。また、差別を受けている人々が自身が発信した世界初の人権宣言で、「人の世に熱あれ、人間に光あれ」として、差別の撤廃や人権の確立、平和などを訴えただけでなく、それぞれの違いを受け入れる寛容さが大切だという貴重なメッセージを世の中に発信しました。講演の最後に、「差別は連鎖し、知らず知らずに偏見が植え付けられていく。時間が解決するからと見て見ないふりをするところでは差別はなくならない。」「お互いの違いを認め合い、みんながリラックスマスして生きてい

ける寛容な世の中をつくっていくことが重要だ。」と差別解消への思いを語られました。水平社創立者の思いや差別解消への展望について熱心に話される姿に、参加者のみなさんは駒井さんの思いを感じながら真剣に聞き入りました。

### 【参加者の声】

○水平社宣言から、当時の人たちの差別解消への思いを知ることができた。私たちも思いをつないでいきたい。

○これまで同和問題について学ぶ機会がなく、情報ばかりがあふれる現代、誤った情報がいかに多いかを知る機会ともなりました。今後これからの生活にも活かしていきたいと思えます。

○「普通」でないことについて、自分がそうなることへの勇気を持つこと、違いを認め、そこから学ぶこと、共に生きることを大切にしたいと思えました。

○今日の講演会は本当の意味での人権を感じる事ができた。人と人が互いの違いを認め合うことができる出雲市になってほしい。

○「部落差別」をなくすためだけではなく、人間らしく、その人がその人らしく生きるためにどのように考えていけばよいか知ることができ、勉強になりました。

○多様性を認める社会になることが差別解消につながると思えました。多

様性がより広がる現代社会の中で違いを認めあつていけるような生き方を考えることが、今後の人権・同和教育には必要ではないかと思いました。

## 人権・同和教育基礎講座

第1回 9月8日(土)

坂田かおりさんを講師に招き、「母娘で問うた部落差別―差別はいま―」と題して講演をしていただきました。

講演では、ご自身が多くの人から相談を受けてきた体験を元に、現在の結婚差別やさまざまな人権課題についてお話しいただきました。「まずは自分の中の差別心と向き合い、それを正していくこと」、「自分自身が日々笑って幸せに過ごすことで、差別する側が恥ずかしいと思える世の中にする」と熱く語られました。今なお根強く残る差別の現実から、誰もが生きやすい社会にしていくためにはどうすべきか、改めて考える機会となりました。

### 【参加者の声】

○自分の差別に気づき、差別をしない生き方を実践したいと思えました。

○日々の生活の中で人権問題はとても身近な問題なのだと感じました。

○明るく生きるためには、人の悪口を言わないことで、周りにも明るい人が集まるという話が印象的でした。

国立ハンセン病資料館参与の儀ぎどうまいさいち同政一  
さんを講師に招き、「ハンセン病と人権  
—ハンセン病問題から学ぶこと—」と題  
して講演をしていただきました。

講演では、日本のハンセン病問題の歴史や政策などについてお話しいただきました。日本では、ハンセン病は、有効な治療薬が開発され、治癒する病気になったのにも関わらず、国が強制隔離政策を継続してきました。ハンセン病患者は学業を中断され、職にも就けず、結婚や子育ての機会を失い、家庭崩壊や社会と断絶されるなどの人権侵害を受けてきました。そして、今もなおハンセン病患者や回復者に対する偏見や差別は根強く残っています。講演の中で、「自分の心の中にも差別意識があるということ認識することが差別者にならない第一」「偏見や差別は、知らない、知ろうとしない、見て見ぬふりをする、そして姿かたち、考え方・人種など自分と違う人を受け入れないことから生まれる」と語られました。

【参加者の声】

○差別を受けた人の立場になってみるのと、それが差別をなくす原点ではないかと強く感じた。

○ハンセン病に関わらず、人を差別することは間違いであると、あらためて心から思わされた。

人権・同和教育  
基礎講座(第4回)  
開催予定

受講生募集

第4回

とき 12月15日(土)  
9時30分～11時30分

ところ 市役所くにびき大ホール

講師 (公社)子ども情報  
研究センター理事  
おくむら ひとみ  
奥村 仁美さん



演題

「子どもの人権を知って、  
子どもとともに  
～訪問アドボカシーから考える～」

アドボカシーとは、おとなが子どもの声を聴き、それが子どもの生活に関わる決定に影響を与えるように支援することです。講師自身の障がい施設での訪問アドボカシー活動についてお話しいただきながら、子どもの権利条約をもとに、子どもの人権について学びます。虐待など、子どもを取りまく問題を人権の視点で考え、一人ひとりに何ができるか考えてみましょうか？

《世界人権宣言70周年》みんなで築こう人権の世紀  
～考えよう相手の気持ち 未来へつなげよう 違いを認め合おう～

12月4日(火)～  
10日(月)は  
人権週間

強調事項

1948年(昭和23年)12月10日の国連総会で世界人権宣言が採択されました。国連ではこの日を「人権デー」と定め、人権擁護活動を推進しています。また、今年も、世界人権宣言が国連で採択されてから70年の節目の年でもあります。わが国では、毎年12月10日を最終日とする1週間を「人権週間」と定め、年ごとに強調事項を掲げて、人権意識の高揚を呼びかけています。

- ◎ 女性の人権を守ろう
- ◎ 子どもの人権を守ろう
- ◎ 高齢者の人権を守ろう
- ◎ 障がいを理由とする偏見や差別をなくそう
- ◎ 部落差別等の同和問題に関する偏見や差別をなくそう
- ◎ アイヌの人々に対する偏見や差別をなくそう
- ◎ 外国人の人権を尊重しよう
- ◎ HIV感染者やハンセン病患者等に対する偏見や差別をなくそう
- ◎ 刑を終えて出所した人に対する偏見や差別をなくそう
- ◎ 犯罪被害者とその家族の人権に配慮しよう
- ◎ インターネットを悪用した人権侵害をなくそう
- ◎ 北朝鮮当局による人権侵害問題に対する認識を深めよう
- ◎ ホームレスに対する偏見や差別をなくそう
- ◎ 性的指向を理由とする偏見や差別をなくそう
- ◎ 性自認を理由とする偏見や差別をなくそう
- ◎ 人身取引をなくそう
- ◎ 東日本大震災に起因する偏見や差別をなくそう

第31回 隣保館まつり人権標語特選作品

- しらんぷり いじめてなくても いじめだよ  
四路小学校1年 川瀬 瑞葵さん
- 見てただけ 一番酷い 言い訳だ  
第三中学校3年 小川 隼人さん
- 気づいたら 勇気をだそう 声だそう  
長浜小学校4年 天野 凌輔さん
- 取りはずせ あなたの偏見 負のレンズ  
河南中学校3年 松村庄太郎さん
- 一人でも 正しいことを つらぬこう  
荒木小学校6年 山上 敦也さん
- 無知こそが 要らぬ偏見 差別生む  
島村町 田中真由美さん